

# 語彙力を高める

鈴木 康 弘

10月29日(日)に行われた学習発表会には、観覧者数に制限を掛けず、久しぶりに多くの皆様にご来校いただき、近一っ子の成長した姿を見ていただいたことに感謝申し上げます。今回、車での来校を制限させていただいたことには多くの皆様のご理解をいただき、また、PTA役員の皆様には駐車場誘導のご協力に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、今年1年を通して「すごい人」といって思い浮かぶのは誰でしょうか。皆さんはいかがでしょう。私ならはじめに頭に浮かぶのは「大谷翔平」選手。次は「藤井聡太」棋士です。将棋界の8つのタイトルを獲得し防衛しているところが藤井棋士のすごいところ。また、藤井八冠のインタビューの受け答えを聞いていると、青年にもかかわらず熟年の私でも使わないような言葉がすいすい出てくることにびっくりです。例えばこんな感じ。

「20連勝できたのは実力からすると僥倖（ぎょうこう）としかいいようがない。連勝を意識せず一局一局指していきたい。」

おごる姿勢を見せず、謙虚で物静かな感じがたまりません。

彼の語彙力は遡ってみれば、小学生の頃の読書量の多さだと思います。低学年の頃は「スマーフ」シリーズ、高学年には司馬遼太郎や村上春樹、新田次郎などの本も読んだとか。そして4年生の頃から新聞を読み始めたそうです。このネット社会で、今やニュースでも何でもネットでちょちょいと調べられる時代ですが、アナログ方式とは意外です(辞書も大いに活用していたそうです)。彼は言います。



「毎日、新聞に目を通しています。自分の目に見えるものだけだと、どうしても狭い世界になってしまうので、新聞を読むというのは、長年続いている習慣です。」

文字にふれる機会が多かったのでしょうか。私も朝早くに起きるようになり、じっくり新聞を読むことが増えました。遅まきながら語彙だけでも藤井八冠に近づけるかもしれません。